

第 8 回東北管内耕作放棄地解消事例発表会 を開催しました。

平成 28 年 10 月 25 日（水）～26（木）、福島市杉妻町「杉妻会館」において、東北農政局とともに開催しました「第 8 回東北管内耕作放棄地解消事例発表会」には、東北各県の耕作放棄地対策協議会をはじめ、農業者や関係団体、行政機関などから約 130 名の方に参加をいただきました。

（1）講演

「多様な主体による荒廃農地再生と地域の活性化について」と題し、県内の NPO 法人の活動等に精通しておられる福島大学の岩崎由美子教授から、むらづくりとしての耕作放棄地の再生や地域を守るコミュニケーションの重要性について御講演をいただきました。

県内での取組事例を上げながら、耕作放棄地発生要因と今後の地域住民の役割についてわかりやすく解説されました。



講演中の岩崎由美子教授

（2）事例発表

東北各県からの中から耕作放棄地の解消に向けた特徴的な取組について、事例発表が行われました。

○福島県 （株）吉野家ファーム福島



耕作放棄地を活用して外食産業向けの食材生産を行い、今では企業として地域に溶け込み、また、耕作放棄地を解消したことで害虫発生が減少したことなど、地元で歓迎されている旨の報告がありました。

○山形県 農事組合法人山形ホワイトイーグルス



耕作放棄地再生のきっかけは、企業と行政を交えた話し合いから始まり、醸造用ブドウの生産組合を立ち上げ、契約栽培を行うことで、耕作放棄地の解消を進めている旨の報告がありました。

○青森県 弘前市農業委員会



農業委員のボランティアにより耕作放棄地の防止に努めた結果として、流動化等が進まない耕作放棄地は、非農地化へと方向転換したことや、農地活用支援隊なるものを組織し、自分たちの得意分野で活動したことについて報告がありました。

○岩手県 社会福祉法人岩手更生会緑生園・まめ工房の郷



障がい者の雇用創出のため、耕作放棄地に着目して農業の規模拡大を目指すことから始まったが、農業は手作業等が多いことから、現在では農家からの依頼を受けて作物の栽培を行っていることの報告がありました。

(3) 国からの情報提供

農林水産省農村振興局地域振興課から「荒廃農地の現状と対策について」と題して、新たな食料・農業・農村基本計画における荒廃農地対策の位置づけの説明の後、荒廃農地対策の枠組や耕作放棄地再生利用緊急対策について説明がありました。



(4) 現地調査

10月26日は、福島市土船地区で、被災者が耕作放棄地を活用して牧場で使用する牧草の栽培を行っているほ場や飯舘村が被災農家を支援するため設置した実証ほ(パイプハウス内)での花卉の栽培の状況を視察しました。

